

太陽光と風力発電併用

LED街路灯を開発

ルクス・コスト削減 低価格

発光ダイオード(LED)照明開発のルクス・エナジー(新潟市中央区)は、太陽光と風力発電を併用するLED街路灯を機械装置製造の環境エネルギー研究所(東京)と共同開発した。他社の既存品に比べ3〜4割価格を抑えた。27、28の両日、同区で開かれる新潟国際ビジネスメッセで展示し、自治体向けに営業を始める。

開発した街路灯は高さ約6メートル。風の強弱によって翼の数が変わる風車と、太陽光パネル2枚で発電する。日照がなく、無風状態でも約20時間点灯できるバッテリーを備える。

ルクス社によると、既存メーカーの製品は価格が250万〜300万円台だが、部品調達

内自治体をターゲットに営業を行う。2012年度までに30基の販売が目標。渡辺社長は「節電やLEDが注目を集めておりニーズはある。価格面で他社と差別化した商品投入でビジネスを広げたい」と話した。

「節電やLEDが注目を集めておりニーズはある。価格面で他社と差別化した商品投入でビジネスを広げたい」と話した。



太陽光と風力発電を併用するLED街路灯―神奈川県

の見直しなどで製造コストを削減し、ルクス社は178万円で販売する。同社の渡辺和市長は「先行メーカーもある中、価格でインパクトを出すことがベンチャーが生き残る道」とする。今後、電気工事業者やデザイン事務所など販売代理店を募り、県